

情報交差点・心と心の交わり

あじまへ

大宜味村教育委員会

電話 44-3006

FAX 44-3029

おめでとう！！喜如嘉小、野鳥観察で環境大臣賞受賞！！

11月26日（月）、第47回全国野生生物保護実績発表大会（主催：環境省及び公益財団法人日本鳥類保護連盟）が東京都で開催され、喜如嘉小がこの大会で最高の賞ともいえる環境大臣賞を受賞しました。

大会には金城さくらさん、稲福倭子さん が学校を代表して出向き、「身近な自然を考える ～喜如嘉ターブク（田んぼ）の野鳥観察を通して～」と題して、今年で25年目になる野鳥観察の継続してきた様子を発表。あわせて種によって個体数の増減に違いがあることや、野鳥観察が地域に与えた効果についても話しました。

28日、受賞の報告に訪れた2人。倭子さんは「ゆっくり話すように心掛けた。特に24年間の研究結果と今年の研究結果を伝えたかった。」さくらさんは「みんなに聞こえるように大きな声で発表した。審査員からの質問にも答えることができてよかった。」と大会を振り返り話してくれました。

島袋義久村長は「朝早くからの観察などみんなの頑張り、地道な積み重ね、よい指導者がいた結果。この賞は村の誇りであり、村民に大きな自信、喜びを与えてくれた。ありがとう。」と激励しました。

おおきみようちえん せいがつはっぴょうかい



12月18日、大宜味幼稚園で生活発表会が行われました。合唱から始まり、踊りに紙芝居に劇あそびと盛りだくさんの内容。竹あそびは床に貼ったテープでの練習から始まり、本番では全員が竹を使ってできるようになりました。紙芝居は11月の遠足で水牛車に乗って楽しかったことや蝶々園に行ったことなどを自分たちでお話を作り発表しました。自分たちでどんなことをしたいか考え、セリフや動きもオリジナル、友だち同士で教え合ったり注意し合ったりして練習し、本番では一人一人が自分の役割を果たしました。

チームワークでたすきをつなげる ～第8回ヤンバルクイナカップ～

12月9日（日）、国頭陸上競技場で第8回沖縄県小学生駅伝競走大会ヤンバルクイナカップが開催されました。

今年も大宜味村からは2チームが出場。メンバーは代わりましたが28位、37位と去年の成績を上回りました。チームワークづくりや他地区の仲間とのふれあいも目的とするこの大会。メンバーからは以下のような感想があがりました。



- 大会を終えて（感想文よりそのまま抜粋）
- 自分でどのくらい力があるかわかった
- 今のままで満足しないでもっと上をめざしたい
- 手伝いをすすんでした
- 次の人にたすきをつなぎきれてよかった
- この大会で少し心が強くなった気がする

- ぶながやKid's**
宮城佑喜乃 金城元汰 國吉琴美 新城寛真
宮城麗乃 知念快 青木涼世 具志堅光彦
- ぶながやキッズ**
福地嬉楽璃 金城海斗 山城願 山城嘉秀
金城さくら 山城樹 島袋茉弥 福地想楽

大宜味 ホット News ～0HN～ 一戦一戦を大切に… 大宜味中ソフトテニス部、九州ジュニア選抜出場

12月6日（木）、大宜味中学校ソフトテニス部のメンバー12名が大宜味村役場村長室を訪れ、表敬訪問をしました。

ソフトテニス部は11月に開かれた第40回当山堅一杯で男子が団体2位に輝き、12月の第24回名嘉賀昌杯では個人戦で男子の嵩原久広、渡部遙ペアが8位に、女子の嵩原輝子、平良琴音ペアが4位、稲福珠音、福地楽ペアが5位に入賞。その結果、見事、第27回九州ジュニア選抜インドアソフトテニス大会（12月23日～24日 熊本県で開催）に出場する事が決定。男子は初の九州大会出場となります。

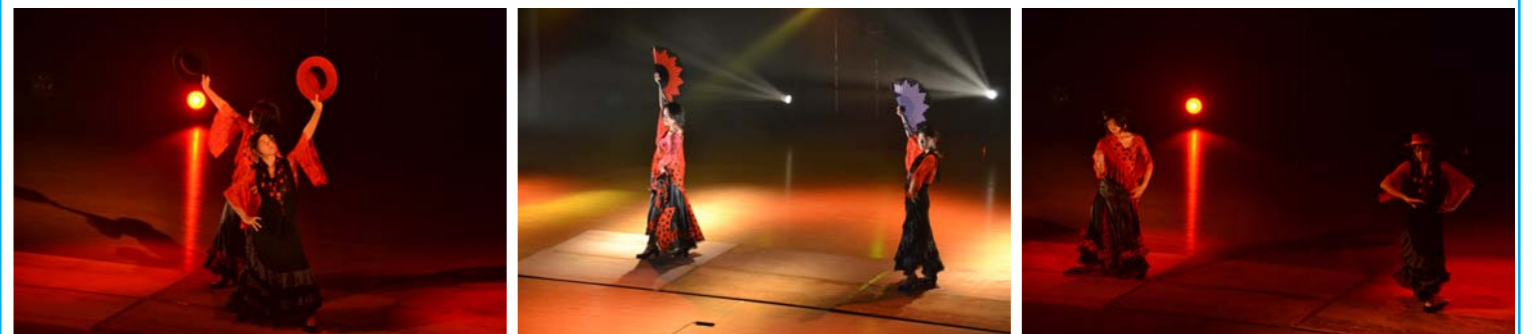


村長室で当山杯と名嘉杯の結果報告と九州ジュニア選抜出場の決定を伝えた部員たち。九州選抜に向け、個人戦に出場する平良琴音さんは「九州大会では自分のプレーができるようにしたい。一球一球を大事にしていきたい。また、自分の試合以外では団体戦に出場する男子のサポートもしていきたい。」と抱負を述べ、大会に出場する部員全員からも力強い抱負が次々と語られました。村長は「本当にありがとう。みんなの頑張りは大宜味村の“人材を以て資源と為す”に値する。村民に元気と喜びを与えてくれた。練習してきたこと、自分の力を信じて頑張してほしい。」と部員たちを激励しました。

大宜味 ホット News その2 ～0HN～ 本場のフラメンコを披露 山城香恵、萌恵姉妹、県中学校総合文化祭に出場

12月8日（土）、9日（日）に浦添市てだこホールで開催された、第18回沖縄県中学校総合文化祭に国頭地区中文連の推薦で大宜味中学校の山城香恵さん（2年生）、萌恵さん（1年生）姉妹がヤングパフォーマンスフェスタに出場し、フラメンコを披露しました。

おばあちゃんがフラメンコの先生をしているのがきっかけで、自然と踊り始めたという2人。この日はタンギージョ・デ・カディスというカディスのお祭り（カーニバル）で歌われた、明るくユーモアのある詩とテンポの速い軽快な曲を、赤と黒のドレスを身にまとい、颯爽と踊りま



語りで、歌で観客を魅了 ～紗羽しゅうこ公演開催～

12月9日（日）、大宜味村農村環境改善センターで「がんばれ福島！チャリティー公演 紗羽しゅうこコンサート・・・東北の民話語りとシャンソンと・・・」が開催されました。

昨年も読書講演会で語りとシャンソンを披露してくれたしゅうこさん。娘さんから、おじい、おばあ、鶴や亀まで様々な役柄をこなし、くるくると変わる表情と軽快な東北弁に訪れた人たちは



様々な表情を見せるしゅうこさん

どんどん話に引き込まれていきました。

後半のシャンソンでは、装いも新たに黒いドレスを身に纏い、妖艶でそれでいて力強い歌声を披露してくれました。結婚行進曲やアコールドィオン弾きなど一つ一つの歌をわかりやすく解説してくれ、歌に込められた思いを噛みしめながら聞くことが

できました。最後は会場の人たちも一緒になりみんなで「ふるさと」を歌い、会場が一体となりました。



今年はピアニストの藤野恵美さんも来てくれました。

遊んで、クイズで、歌で、国際交流♪

～塩屋小国際交流～

12月13日（木）、塩屋小学校でアメリカ、韓国、ペルーのからの国際交流員を招き、国際交流会が行われました。

この交流会は財団法人沖縄県国際交流材育成財団が主催する国際交流の一環で塩屋小は11校目となります。先生はアメリカ出身のエリザベス・ロイターさん、韓国のキム・ジンさん、ペルー出身で日系3世の当山樋口アウトローさんです。



エリザベスさんからはアメリカには様々な人種が住んでいて、地域により、気候や宗教、音楽、暮らしている人種が違うことを教えてもらいました。キンさんは言葉や遊び、料理などの日本と韓国の共通点（似ている発音や遊びなど）をクイズ形式で教えてくれました。当山さんはナスカの地上絵やマチュピチュ、アマゾン川などを写真で紹介。ペルーの町並みを撮影した写真も見せてくれ、建物や教会などスペインの植民地時代の

名残があると教えてくれました。

地域について学んだ後は各教室に分かれ、1、2年生はキンさんと日本のすごろくに似たユッノリ、3、4年生は当山さんとペルーの体の歌を歌って遊びを、5、6年生はエリザベスさんとトランプを使ったカードゲームを体験しました。

発表も面白く、すぐに子どもたちと打ち解けた先生たちは、休み時間もゴンギ（沖縄のイシナゲーに似た遊び）やサッカーなどをして交流を深めました。



⑦ フラダンス (ていんさぐめ花・グリーンローズ77)



屋古フラガール

⑧ 日本舞踊（披露の舞） 第17回しまんちゅ芸能の夕べ



日本舞踊西川楚多華道場

④ 日本舞踊（おしろい花）



日本舞踊西川楚多華道場

⑤ 民謡（便い・富原ナークニ・トゥバラマ）



友寄景勇

① かぎやで風



根保光枝琉舞練場大兼久教室

② バンド（恋しくて・芭蕉布）



デイサービスおおぎみバンド

第17回しまんちゅ芸能の夕べ at 改善センター

⑨ 大正琴 (蒲田行進曲・影を慕いて)



琴修会沖縄北支部

⑥ 鳩間節



玉城流七扇会大田多恵子琉舞研究所

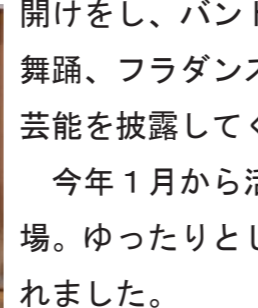
③ 太鼓（かたみ節・江差節）



乾流太鼓段の会

12月8日（土）、大宜味村農村環境改善センターにて第17回しまんちゅ芸能の夕べが開催されました。

新城百華さん、真喜志美春さんのかぎやで風で幕開けをし、バンドや太鼓、大正琴、民謡、舞踊、フラダンスなど9団体が華やかな芸能を披露してくれました。



今年1月から活動を開始した屋古フラガールは小さい子どもから大人まで17名が出演。ゆったりとした動きの中に力強さを感じ、心地よい音楽としなやかな踊りに癒されました。



少ない演目数ではありましたが、一つ一つが洗練されており、最初から最後まで演者に魅了されたしまんちゅ芸能となりました。



心の教室相談員（スクールカウンセラー）雑感

新年明けましておめでとうございます。

昨年は大型台風 16, 17 号が久しぶりに沖縄を直撃し、県内に大きな被害を及ぼし、お互いの生活にも支障をきたしました。村内を見渡しても、まだ至るところ被害の爪痕が残っています。今年はどんな年になるでしょうか、各家庭での今年の抱負はいかが？いい年、ゆかる年になることを祈っています。



私は教員を退職後、村から心の教室相談員の委嘱を受け、平成 22 年に 4 月から大宜味中学校でスクールカウンセラーとしてやっています。教員在職中は生徒達や先生方、保護者、そして地域の方、卒業生とクチカギリ（! ?）関わりを持ってきたつもりです。その経験を生かしていければ、と引き受けた次第です。しかし、ここ十数年前から生徒や保護者の考え方も随分大分変わってきたような気がします。

自分の経験と実践だけをを頼りに やっては見ましたが、不登校や長欠、学業不振、友人関係など原因がよく分からないことが多々あることに気づきました。

やってみて気づいたことは、指導は一人の考えでやるよりは、校長先生をはじめ、全職員で共通理解してやる方が効果があるということです。横のつながり、縦のつながりは学校においてとても大事なことです。たとえば、生徒の見方にしても一人の目よりは、多くの目を見た方がより客観的に見ることができます。また、長時間かけて話し合いやと理解してもらえたと思っても、数分後には生徒の気分が変わったり、約束事が簡単に破られたりすることもあります。そういう意味で不登校や長欠などの解決には時間がかかります。あせらず、子どもに寄り添いながらしっかり関わっていきたくと思っています。

約 2 年半、生徒や保護者と接してきましたが、そこで一番大切な事は、生徒と互いに話したり、食べたり、見たり、聞いたり、じかに接することです。その中で喜怒哀楽の感情が芽生えた時に成長へと、つながっていく、ということがある程度の確信はできたと思います。感情が表れるということは、心を開いている証であるからです。そして、家庭、学校、地域がそれぞれの役割を果たし、お互い協力・連携することができれば、様々な問題がきっと解決できるものと確信しています。

長い人生、失敗や挫折は誰にでもあります。立て直しに何ヶ月あるいは何年かかるか知りませんが、とにかく 1 日でも早く人生の春が訪れることを願っています。そのために、微力ではありますが、これからも千バツていきたくと思います。

スクールカウンセラー 吉田 春子

…サンタが大宜味にやってきた!?



12 月 20 日（木）に喜如嘉保育所、25 日（火）に塩屋保育所でクリスマス会が行われ、サンタクロースが子どもたちにプレゼントを渡しに来ました。うちな〜ぐちを使うちょっと変わったサンタさんに子どもたちは大喜び。一緒に踊ったり、ごちそうを食べたりして楽しいひとときを過ごしました。

教育委員と聞いたら「厳格」とか「お堅い」とかそんなイメージはありませんか？

大宜味村への熱い思いを持ちつつ、実は気さくな先生方。このコーナーではそんな先生方の教育に対する思いや地域への思いなどを様々な形で紹介したいと思います。

教育委員だより

「花づくりが好きになるまで（2：高校生活）」

池原弘昭

自宅から約 4 km にある辺土名高校に入学し半年ほどは自転車通学した。野球部に入部したものの、運動能力に劣ることもあって、ほとんど練習には参加させてもらえなかった。私の部活動は、毎日グラウンドの草取りや針と糸でボールの補正をすることであった。ごくまれに名護付近の高校との練習試合があった。その時は、用具の点検や持運びの係として、レギュラーのみなさんと行動できることが大変うれしいことであった。



6 月ごろだったと記憶しているが校内 10km 大会があり、駅伝部の後ろから走っていると 7 km 付近までは先頭 3 名の中の一人になって走っていた。しかし、駅伝部員のように長距離を走った経験がなく、ペース配分をすることも知らなかったので残り 2 km 付近から走ることができなくなり、ゴールの成績は 100 番台と恥ずかしい思いをしたものだ。

夏休みになると寮生活をしている野球部の先輩が里帰りすることもあり、練習の人数が不足するとたまには守備練習をさせてもらえることもあった。そして 2 学期校内 10km 大会での途中経過を知っていた駅伝部監督の平良先生に職員室に来るように声をかけられ、そこで「野球部に所属してよいから駅伝部員として練習に参加するように」と言われた。名誉なことでもあったので、その日から駅伝部と練習する事にした。これが失敗のもとで、数日たつてから、3 年の先輩から学校裏の墓地にくるよう呼び出しがあった。当時は「制裁」が度々あり、いよいよ今度は自分の番かと「制裁」を覚悟して墓地にいった。そこには十数名の 3 年生が待ち構えていて、野球部の先輩から「最近なぜ野球部の練習に来ないのか。なぜ駅伝部と練習しているのか」と問いただされた。私は「野球部を勝手にやめたわけではなく、今でも野球部員であること。職員会議で駅伝部にも所属して練習させると決まったと聞いていること。全琉駅伝大会が終われば元の野球部に戻ることにしている」こと等について説明をした。すると、そこにいた駅伝部の先輩が「池原の言っていることは間違いはない」と助け船を出してくれた。そのお陰もあって、恐怖であった「制裁」もされずに無事教室に帰ることができた。

その時以来駅伝部の先輩が神様に見え、毎日駅伝部の練習に一段と励むようになった。しかし、新参者の私は練習についていくのがやっとで大会までにレギュラーにはなれず、他の部員の後を一生懸命追い掛けるのが精一杯であった。早く走れるようになりたい。そこで他の駅伝部員よりも多く走り込むにはどうしたらよいかと考え出した結論が、自転車通学をしている登下校の 4 km、往復 8 km を走れば他の部員よりも長く走りこむことができることに気が付き、実行することにした。2 ヶ月もすると効果が現れ、名護 10km ロードレースや那覇 10km ロードレースでは他の部員よりも上位に入賞するまでになっていた。毎日走りこめは走りこむほど記録が伸びるので練習が楽しく、何時のころからか高校へ行く目的が勉強よりも、走ることに重きを置くようになり、野球部も退部し、走ることが生活のすべてになっていた。



(高校 2 年へつづく…)



ドゥーチユムニー（独り言）

友寄景善

明けましておめでとうございませう。

新年を祝い、皆様におかれましては、この一年が輝かしい、飛躍の年になりますよう心から祈念いたします。

昨年も村内児童生徒の文化やスポーツ面での活躍が沢山ありました。中でも、中学校女子ソフトテニス部が開校以来初の県大会を制覇し、九州大会へ出場しました。男子も急速に力をつけてきました。今年の活躍が楽しみです。

昨年十一月末には、全国野生生物保護実績発表大会が東京都内で開催され、喜如嘉小学校が見事最高位の「環境大臣賞」を受賞したことは大きな喜びでした。二五年目に入った野鳥観察と保護活動。そして学校全体で野鳥観察に取り組んできたことが高く評価されたようです。恵まれた自然環境を活かし、地域一体となった成果だと思えます。野鳥観察を通して様々な面でも波及効果をあげてきました。今後の活動に期待いたします。

今年も学校教育、社会教育等の充実に取り組んで参りたいと思えます。そのため職員一同さらに気を引き締め研さんに努め、引き続き住民の声に耳を傾けながら教育施策を展開して行きます。

特に、児童数の減少に起因して、小学校の様子も大きく変わって来ました。複式学級編制を余儀なくされ、それに対する支援策や授業改善の工夫・研修も重ねて参りました。部活動の様子も変わって来ました。小規模校の課題も山積しています。これらにどう対処するべきか、判断を迫られる重要な時期にあります。幼児・児童生徒のため、少しでも良い教育環境を整備し、教育効果を高めてあげたいと思えます。歳を重ねてくると、つい過去を語り思考も停滞しがちになります。しかし、限りなき可能性を秘めた幼児・児童・生徒の未来を語り、希望に満ち溢れた将来像を想い描きながら、今出来る事を大いに語りあえる一年にしたいものです。

今月の生きもの

ヤンバルクイナ：クイナ科

こんばんは、言わずと知れた森の人気者(?) ヤンバルクイナです。ぼくはよく夜に写真を撮られるから、夜行性の鳥と勘違いされるけど、本当はみんなと一緒に朝に起きて夜は寝ています。この写真も寝ているところを撮られたものなんだ。せっかく、いいマツ見つけて気持ちよく寝ていたのに~!!



～編集後記～

新年あけましておめでとうございませう。やっと厄年も終わり、今年はいいい年になるんじゃないかと期待しております。「今年こそっ!!」…って、去年も同じこと言ってたな。

大宜味村育英会へ

大宜味村診療所長 内間恭堅様 金一封
大宜味村子弟教育のため

平成24年12月14日寄付

1月の行事予定

- 1日（火）元旦
- 4日（金）成人式
- 7日（月）区長会
村民新春の集い
始業式（幼・小・中）
- 9日（水）喜如嘉保育所マラソン& 駅伝大会
- 11日（金）持久走大会（大小・塩小）
- 14日（月）成人の日



- 16日（水）塩屋保育所マラソン& 駅伝大会
- 18日（金）持久走大会（津小）
- 19日（土）村産業まつり ~ 20日
- 20日（日）村駅伝競走大会
- 22日（火）体験の翼事前学習会
- 25日（金）村P連運営委員会
- 26日（土）沖縄一周郡対抗駅伝大会 ~ 27日
- 27日（日）村学推実践報告会（津小）
- 28日（月）幼・小・中振替休日